「平成会」平成幹事 インタビューリレー

平成会 幹事インタビュー (H1編)

Q1:今年もH3年幹事の下、総会が盛り上がっていますね。日本一の同窓会(1201名超!)達成するでしょうか?

A1:過去最高が1130名(H56年幹事)ですから、なかなかハードルは高いですが、H3年~H5年は、いわゆる団塊世代ジュニアの学年。この学年層が幹事学年で中核となって大勢集まっていただければ、「故郷と東京のつながり」を考える世間的な雰囲気もありますから、狙えなくもないですよね。

また、ここ数年、総会幹事は一大同期プロジェクトとして盛り上がりを見せているので、その意味でも大きな目標を掲げるのは、プロジェクトを盛り上げ、本人達が楽しむためにもいいのではないかと思います。

Q2:一昨年の総会を振り返って、率直なところどうですか?

A2:いい同期に恵まれ、総会プロジェクトをみんなで達成でき、高校時代同様いい時を過ごせたことを感謝しています。平成元年としては、昭和世代から受け継ぎ、自分達のカラー(平成元気120%!)を出して、平成世代間の引き継ぎを果たす、ということがテーマでした。その意味でもプロジェクトをみんなで達成できたことは、同期にとっても、大きな充実感があり、その後のいい財産にもなったと思います。O3:平成会的に総会を担当するということ、

どう考えられますか?

常に機能的に動くことを個人に強く要請しがちなので、各人で意識して、自分のベースとの繋がり、感性・個性、人間性を大切に守り、成長させていかないと流されてしまうような気がします。そんな中、卒業後25年(四半世紀経過後)で、互いにちょっといい大人になって、経過である高高的な雰囲気の中で、同期とると関いを創るのは、その再構築の一助になるかと思います。今のような時代だからこそ、更に意義あり、というところでしょうか。総会幹事が終わって、やはり、そのように思います。

A3: 今の社会は、各組織の目的・発展のため、

Q4: 今後も総会は続くと思われますか?

A4:世の進歩、その時その時の学年の感性によって変わるのでしょうが、続いていって欲しいと思います。というのも、他にこれ程、東京と高高を繋げるものはなく、やはり先輩から引き継いできた財産、知恵の実は大事にとっておき、後代の人も大事にできるようにするのが、感覚的ですが、いいように思うからです。

Q5:ところでここ数年、平成会会長を引退する向きの発言がありましたが、どうなのですか? A5:と思って、三好君(H2年)にお願いしたのですが、なかなか「うん」といってくれない。結局、信頼のおける彼がそういうのだから、そういうことにしようかと思いました。ただ、来年からはこうした原稿ぐらいは引き継ぎたいなと。平成総会を担当した幹事が一年おいて、冷静になって自分の総会を振り返り、何かを後代に伝える。さすがにそれぐらいは引き継いでくれるでしょう。ということで、来年は、三好君、原稿よろしく!

連絡先

斉藤利幸(H元年卒)

t3saito@par.odn.ne.jp